



なすびの花

PDCAとOODA(先月号の続き)

今月は、先月号のテーマの続きとなります。

先月号では事例として、就業中の積雪時の対応を「OODA」に当てはめてご紹介しました。改善を行う時、大きな枠の「PDCA」の中で「OODA」を動かすことができます。おさらいとして、

○ (観察)、○ (状況判断)、D (決定)、

A (処置)

で読んでください。

○：「天気予報の通り、夕方になって雪がたくさん積もってきました！」

○：「これ以上積もったら、帰宅困難者が出る可能性がある！」

○：「まだ終業時刻までは早いけど、責任者に相談して、みんなの帰宅を促す必要がある！」

○：「ある！」

D：「帰宅指示が出たから、みんな気を付けてすぐに帰宅してください！」

A：「帰宅指示が出たから、みんな気を付けてすぐに帰宅してください！」

○：「ある！」

A：「帰宅指示が出たから、みんな気を付けてすぐに帰宅してください！」

○：「ある！」

「CAPD」の「C(現状把握)」に該当します。通常、不適合が発見されると、まずは暫定対策を講じて、その後、恒久対策を練ります。

この事例の積雪時の対応についても、今後の対応について、見直しが行われました。

C：「就業中に積雪で帰宅困難の危険が迫った場合の判断基準がよく分からなかった。」

A：「緊急時の体制についての周知が曖昧で、責任者・代理責任者2名の情報も古かったため、BCPを見直します。」

P：「気象情報には常に注意し、災害発生前の段階で、責任者と相談する。また、緊急で危険を察知した場合には、すぐに責任者に意思決定と指揮命令を仰ぐ。」

(今回見直した結果は、)

統括責任者＝社長、

D：「見直し後のBCP抜粋と、避難情報のポイントを各課に掲示し周知を行った。」

代理責任者＝湯原次長と和泉工場長代理)

統括責任者＝社長、

代理責任者＝湯原次長と和泉工場長代理)

統括責任者＝社長、

代理責任者＝湯原次長と和泉工場長代理)

D：「見直し後のBCP抜粋と、避難情報のポイントを各課に掲示し周知を行った。」

代理責任者＝湯原次長と和泉工場長代理)

統括責任者＝社長、

代理責任者＝湯原次長と和泉工場長代理)

気象災害は、冬場の積雪だけではなく、梅雨時の大雨、夏から秋にかけては台風と、年中様々な懸念があります。

対応に、右往左往してしまいます。

今後は、BCPの通りに、早めの情報取得を心掛け迅速な対応で、安全を守りましょう。

※BCPとは、会社の事業継続計画のことです。様々なリスク対応が明文化されているものです。

※BCPとは、会社の事業継続計画のことです。様々なリスク対応が明文化されているものです。

※BCPとは、会社の事業継続計画のことです。様々なリスク対応が明文化されているものです。

※BCPとは、会社の事業継続計画のことです。様々なリスク対応が明文化されているものです。

2:6:2の法則

こちらもまた、先月号の続きとなります。

2:6:2の法則を人間に当てはめると、組織で目指すものは、「10:0:0」が理想です。

上位層の「2」については、放っておいても「向上心」と「高い能力」で前進していく集団です。

あとは、中間層にあたる「無関心」「消極性」の「6」、そして下位層となる「後ろ向き」の「2」の集団が当てはまります。

中間層の「6」については、組織の方針に概ね協力的であるので、組織で問題となるのは、「後ろ向き」の「2」となります。

下位層の2割を上につ引っ張り上げることが、組織としての課題です。

組織で働く上で、向上心はとても大切ですが、人間同士が働いているので、様々な要因で、時にはモチベーションが下がることもあるでしょう。

組織では、働く人々のモチベーションを保つためにも、「人材育成」、「適材適所への配置」といった要素で、それを活かす力、育成する力を醸成して成長していくことが大切です。

お互いが切磋琢磨しながら、「2:6:2」の法則にも負けない、「組織力」を培っていきましょう。